

教宣 せぶん

10月7日に戻っただけ

記念すべき「どぶいたニュース100号」に、組合間差別のない『代理店転進提案』が会社より示されたことが情宣されました。このことは間違いなく私たちのたたかいの成果です。外に出るたたかいや世論に訴える行動、そして何よりも私たちの揺るぎない「団結」が実を結んだ賜物と言えます。区切りの100号を飾るにふさわしい「出来事」に違いありません。

しかし、冷静になって全体像を眺めると、今回の会社再提案は、単に「10月7日」に戻ったに過ぎないことがわかります。マイナスがゼロ(原点)になったので、大きな収穫、プラスがあったように感じますが、ゼロ=原点=10月7日という構図は一切変わっていません。現に、同時に提案された「RAからの継続雇用者に関わる人事制度」では、「RAからの継続雇用者については2007年7月からすべて『特命社員』とする。」と堂々と謳っています。私たちはこの会社では全国型・地域型と同じ「従業員」だったはずで、東海社の文化では「従業員」が「社員」になるなどという「しきたり」は過去に一度もなかったと聞いていますが、継続雇用を望むRAは有無を言わず『特命社員』になるわけです。また、「契約係従業員の再雇用に関する規則」では、嘱託社員制度をあらためて閉じようとする目論んでいます。狡猾な東海経営が私たちをこの会社から追い出そうとする出方や姿勢は何も変わっていないし、「差別」をしたからと言って何かを反省しているわけではまったくないのです。おそらく、組合差別をこれ以上続けることが、東海経営自らの「保身」につながらないと判断した姑息な一手というのが真相だと思います。株主総会を前に、都労委から「勧告」というレッドカードを出されている、誰の目から見ても「差別」である私たちへの転進提案の撤回を、繕うための「言い逃れ」に過ぎません。今回代理店転進提案が再び出されても、私たちが差別を受けたという事実は消えませんし、その会社の出方によって揺さぶられ「踏み絵をふまされる」という人格を傷つけられた人間が存在したことを私たちは忘れてはいけません。

たたかいの成果は成果として受け止め、しかし、だからと言って今回の一連の全体像はいささかも変わっていない、むしろゼロに戻したことを盾にさらに揺さぶりをかけてくるという認識と危機感を、組織として共有しなければならないと思います。ハダカの上さまの狡猾さ・姑息さは、何も色褪せていないことを肝に銘じておきましょう。